

# 年頭あいさつ

「将来に向かって安心して暮らせるまらづくり」の実現に向けて



横芝光町長  
佐藤 晴彦

新年あけましておめでと  
うございます。

町民の皆様には、希望に  
満ちた輝かしい新春をお迎  
えのことと、心よりお慶び  
申し上げます。

皆様には、日ごろより町  
政に対する暖かいご理解と  
絶大なるご協力を賜り厚く  
お礼申し上げます。横芝光  
町も合併して早一年九ヶ月  
が経過いたしました。お  
陰様で各種施策もほぼ順調  
に推移しております。私も、  
一昨年の五月に初代町長と  
して就任して以来「未来を

創る住民の視点で」を信条  
とし、小学校六年生までの

医療費の無料化や、休日に  
おいても諸証明などの交付  
が受けられる「町民サービ  
スセンター」の開設、公費

負担による「妊婦健診」の  
充実などを、関係各位のご  
協力のもとに実施させてい  
ただきました。三年目を  
迎える年となり、新たな  
気持ちをもって町政運営に  
あたる決意でありますので、  
引き続きご支援のほどよろ  
しくお願い申し上げます。  
さて、少子高齢化の進展

に伴い、地域医療や介護な  
ど福祉に係る問題が全国的  
に大きな課題となっております  
ますが、当町においても、  
六十五歳以上の高齢化率が  
平成十九年三月末現在で、  
二十六・三パーセントと、  
県平均の十八・三パーセン  
トを大きく上回っているの  
が現状であり、今後は、高  
齢者の方がたが生きがいを  
持つて暮らしていけるまち  
づくりを推進することが、  
特に重要な項目の一つであ  
ると考えております。この  
ようなことから、昨年は、  
町民の皆様と行政との「ふ  
れあい」の観点から、七十  
五歳以上のお年寄りの方が  
たへ配布する「敬老祝い品」  
を、その生活状況把握も兼  
ねて、町職員が直接各世帯  
を廻ってお配りさせていた  
できました。

これにより、お年寄りの  
方がたが今困っていること

や町へ要望したいことなど  
「生の声」を直接伺うこと  
もできました。これらの声  
をできるだけ今後の行政運  
営に反映させ、お年寄りの  
方がたに「この町に住んで  
よかった」と実感していた  
だけける町にしたいと思っ  
ております。本年も、町民の  
皆様との「ふれあい」を更  
に大切にしたいと考えてお  
り、私自身もできるだけ各  
地区へ出向きながら、皆様  
との対話を重ねてまいりま  
すのでよろしく願いま  
します。

また、継続事業である  
「横芝中学校建設事業」や  
「新栗嶋橋架橋事業」、「長  
塚・北清水架橋事業」など  
の大型事業を、合併特例法  
による国・県の支援を受け  
ながら引き続き進めてまい  
るとともに「篠本新井地区  
の基盤整備事業」や「各種  
道路整備事業」の実施、更

には、まだ本採択までには  
至っておりませんが、かね  
てよりの念願であった「横  
芝駅前交差点改修事業並び  
に駅前広場拡張事業」につ  
いても、引き続き千葉県と  
の協議を行い、できるだけ  
早い時期に本採択されるよ  
う働きかけてまいります。

地方財政厳しき折ではあ  
りませんが、今後も様々な経  
費節減策を講じながら、町  
民の皆様が「将来に向かっ  
て安心して暮らせるまらづ  
くり」の実現に向け、精一  
杯努力してまいる所存であ  
りますので、なお一層のご  
指導・ご支援を賜りますよ  
うお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にと  
りまして幸多い年となりま  
すようご祈念申し上げます。  
年頭のあいさつといたします。

